東京国立博物館ニュース

展示と催し物案内
第776号
2024
3·4·5

博物館でお花見を

建立900年 特別展「中尊寺金色堂」／特別展「法然と極楽浄土」
「内藤礼　生まれておいで 生きておいで」
創建1200年記念　特別展「神護寺―空海と真言密教のはじまり」
令和6年度の総合文化展

裏表紙に掲載してるほ！

表紙の名品「金龍山桜花見」

TNM

桜を見つけてください

博物館でお花見を

3月12日(火)～4月7日(日)

春の訪れとともに、桜の季節がやってきました。今年も春の恒例企画、「博物館でお花見を」が始まります。本館では、桜をモチーフにしたさまざまな日本美術の名品をご覧いただけます。また、庭園では約10種類の桜が次々と開花します。その他に各種イベントも開催。当館ならではの贅沢なお花見をどうぞお楽しみください。

3月25日(月)は
特別開館だほー！

トーハクくん
東京国立博物館
公式キャラクター

8室

瓢形酒入

船田一琴作
江戸時代・天保14年(1843)
展示期間：～4月21日(日)

素銅と銀・銅の合金を継ぎ合わせてつくられたお酒の容器です。上部には雲間にのぞく月を銀象嵌し、下部に鍍金の桜花が嵌めこまれています

10室

振袖
染分縮緬地枝垂桜菊短冊模様

江戸時代・18世紀
3月5日(火)～4月21日(日)

枝垂桜が肩にかかる模様を友禅染で表しています。模様を上下にわけるスタイルは江戸時代中期に流行しました

7室

犬追物図屏風

筆者不詳　江戸時代・17世紀
展示期間：～4月7日(日)

犬追物とは弓術の作法をみがく伝統競技で、老若男女が桜の下で思い思いに楽しんでおり、たいへんな賑わいを見せています

(右隻)

※◉は国宝、◎は重要文化財(重文)、○は重要美術品(重美)を表します。特に表記のないものは東京国立博物館蔵です。

桜イベント

＊すべて事前申込不要、参加無料（ただし、当日の入館料が必要）

✿ボランティアによるガイドツアー・スライドトーク

ボランティアによるガイドツアーは、「博物館でお花見を」の期間中、桜に関するお話を加えたスペシャルバージョンになります。構内の樹木をご紹介する「樹木ツアー」では、桜や桜にまつわるエピソードを、桜を見ながらお話しします。当館の建築を見る「たてもの散歩ツアー」、建物や展示室の概要を英語でご紹介する「英語ガイド」、法隆寺献納宝物の魅力をお伝えする「法隆寺宝物館ガイド」でも、構内の桜についてお話しします。

スライドトークでは、ボランティアがスライドを使って作品の魅力をお伝えします。「博物館でお花見を」の期間中、一部のスライドトークでは、桜や花に関わる作品も紹介する予定です。ボランティアによるガイドツアーやスライドトークなどの日時、詳細は当館ウェブサイトでご確認ください。

＊天候等により、内容は変更になることがあります。

✿春らんまん 桜ぬりえ

桜をテーマにした当館所蔵作品のオリジナルぬりえをお楽しみいただけます。展示室にある作品の色づかいや表現にも注目してみてください。

日時：3月22日（金）、23日（土）、24日（日）
11:00～15:00（受付終了14:30）
会場：本館1階19室　　参加費：無料

※会場にて随時受付。1名につき1枚配布。なくなり次第終了。

✿お花見ヨガin法隆寺宝物館

どなたでもお気軽にご参加いただける「お花見ヨガ」を実施予定です。詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。

✿東博句会「花見で一句」

「博物館でお花見を」の期間中、桜をテーマにした俳句を募集します。桜咲く庭園や、桜をモチーフにした作品をテーマに、一句詠んでみませんか？ 応募方法等、詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。

春を感じながら 庭園を散策しませんか？

当館の庭園には、ソメイヨシノやエドヒガンザクラなど約10種類の桜が咲き誇ります。池の前にある腰掛石に座ると、白い花をつけるオオシマザクラを横目に、正面の池の先には色づいた桜と芽吹いた木々のコントラストを味わうことができます。庭園内はさまざまな樹木やお茶室もあり、散策いただけます。展示室で桜の作品をご覧いただきましたら、ぜひ庭園でも春を感じてみてください。

開放時間：9:30～17:00
※天候や整備作業等により、閉鎖もしくは散策エリアを制限する場合があります
※茶室内には入れません

庭園散策マップ
ダウンロードをして
庭園散策にお役立てください。

お気に入りの

10室

桜下婦女図（おうかふじょず）

川又常行筆　江戸時代・18世紀
展示期間：3月12日（火）～4月14日（日）

ひらひらと舞い散る桜の花びらをながめる女性。肉筆画を専門とした浮世絵師・川又常行らしい繊細な一図です

ユリノキちゃん
東京国立博物館
公式キャラクター

13室

色絵枝垂桜図皿（いろえしだれざくらずさら）

鍋島　江戸時代・18世紀
米田實氏・千恵子氏寄贈
展示期間：3月12日（火）～6月2日（日）

枝垂桜を描いた鍋島焼の組皿で、夜の様子が表現されています。高度で洗練されたデザインが追究された盛期鍋島の優品です

※特別展、総合文化展、催し物につきましては、今後の諸事情により予告なく変更する場合がございます。最新情報は、当館ウェブサイト等をご覧ください。

◉阿弥陀如来坐像
平安時代・12世紀　岩手・中尊寺金色院蔵
金色堂中央壇に安置される阿弥陀像。都の仏師の作とみられます

◉持国天立像
平安時代・12世紀　岩手・中尊寺金色院蔵
左手を上げて右手を振り下ろし、大きく翻る袖は、当時としては斬新な表現です

建立900年 特別展
「中尊寺金色堂」

本館特別5室　1月23日㊋～4月14日㊐

国宝・中尊寺金色堂が天治元年(1124)の上棟から900年を迎えたことを記念する本展では、金色堂中央壇に安置される国宝仏像11体をそろって公開しています。なかでも阿弥陀如来坐像は奥州藤原氏初代・藤原清衡発願の金色堂創建当初の像で、当時の都の作とそん色のない優れた出来栄えです。奥州藤原氏の財力と京とのネットワークの強さをまざまざと見せつけます。二代基衡時代の作と見られる持国天立像は、激しい動きに有機的に連動した袖の翻りが見事です。奥州藤原氏100年の栄華の夢のあとを間近にご覧いただける貴重な機会を、どうぞお見逃しなく。　(児島大輔)

観覧料：一般1,600円、大学生900円、高校生600円
※金曜・土曜は午後7時まで開館。
※詳細は展覧会公式サイト等をご覧ください。
展覧会公式サイト：https://chusonji2024.jp/

(部分)

◉綴織當麻曼陀羅
中国・唐または奈良時代・8世紀
奈良・當麻寺蔵（画像提供：奈良国立博物館）
展示期間：4月16日(火)～5月6日(月・休)
浄土経典『観無量寿経』を織り出した縦横4メートルに及ぶ浄土曼陀羅です

(部分)

◎當麻曼陀羅図（貞享本）
青木良慶・宗慶筆　江戸時代・貞享3年(1686)
奈良・當麻寺蔵（画像提供：奈良国立博物館）
展示期間：5月8日(水)～6月9日(日)
国宝「綴織當麻曼陀羅」を原寸大で模写した作品。精密で鮮やかな優品です

五百羅漢図 第57幅 神通
狩野一信筆　江戸時代・19世紀　東京・増上寺蔵
展示期間：5月14日(火)～6月9日(日)
狩野一信が晩年のエネルギーを注ぎ込んだ渾身の大作です。会期中に全100幅のうち24幅を展示します(展示替えあり)

特別展
「法然と極楽浄土」

平成館特別展示室　4月16日㊋～6月9日㊐

本展の見どころは数多くありますが、特におすすめする理由は次の2点です。

ひとつは、奈良・當麻寺の本尊である国宝「綴織當麻曼陀羅」が奈良県外で初公開されることです。普段は當麻寺でも拝観することができない秘仏で、それが公開される極めて貴重な機会となります。法然の弟子証空(1177～1247)が當麻寺でその威容にふれ、再評価したことによって信仰が拡大し、近世に至るまで多くの模本、縁起絵が制作されました。

もう1点は、関東の浄土宗寺院を代表する名宝の数々が集まることです。関東には、鎌倉の光明寺、瓜連の常福寺、飯沼の弘経寺、芝の増上寺、目黒の祐天寺など、浄土宗850年の歴史で度々重要な舞台となった寺院があります。本展は京都・福岡にも巡回しますが、東京会場のみで展示される宝物も多いので、ぜひお見逃しなくご覧ください。　(瀬谷愛)

観覧料：一般2,100円(1,900円)、大学生1,300円(1,100円)、高校生900円(700円)
※(　)内は前売料金
※前売券は4月15日(月)まで、展覧会公式サイト等で販売。
※詳細は展覧会公式サイト等をご覧ください。
展覧会公式サイト：https://tsumugu.yomiuri.co.jp/honen2024-25/

中学生以下、障がい者とその介護者1名は無料。入館の際に学生証、障がい者手帳等をご提示ください。
特別展チケットで、総合文化展をご覧いただけます。／事前予約不要です。混雑時は入場をお待ちいただく可能性がございます。／お問合せ：050-5541-8600（ハローダイヤル）

作家紹介

内藤礼（ないとうれい）

1961年広島生まれ。現在は東京を拠点に活動中。「地上に存在することは、それ自体、祝福であるのか」をテーマに作品を制作、国内外で個展を含む多くの展覧会歴を有する。2023年ミュンヘン州立版画素描館にて個展「breath」を開催。恒久展示に「このことを」（家プロジェクト　きんざ、ベネッセアートサイト直島　2001年）、「母型」（豊島美術館　2010年）がある。2019年第69回芸術選奨文部科学大臣賞（美術部門）受賞。

本展チラシ
使用図版：◎足形付土製品（部分）
新潟県村上市 上山遺跡出土
縄文時代（後期）・
前2000～前1000年
撮影：畠山直哉

本館1階ラウンジ
普段休憩室であるこの場も、
会場の一部となります

内藤礼（ないとうれい）
生まれておいで（う） 生きておいで（い）

平成館企画展示室、本館特別5室、本館1階ラウンジ

6月25日㊋～9月23日㊊・㊡

内藤礼は、世界の第一線で活躍してきた現代美術家です。本展では、平成館および本館に、内藤が、当館の収蔵品から選んだ考古遺物とともに空間作品（インスタレーション）を展開することで、博物館の建物や収蔵品のさまざまな要素も踏まえた東博ならではの場を生み出します。縄文時代につくられたものを現代美術家が生み出したものとともにご覧いただくことで、ふだん総合文化展で展示されている文化財の新しい見方・解釈に触れていただけると思います。皆さまにとって、東博でのいつもとは異なる鑑賞体験になれば幸いです。　（鬼頭智美）

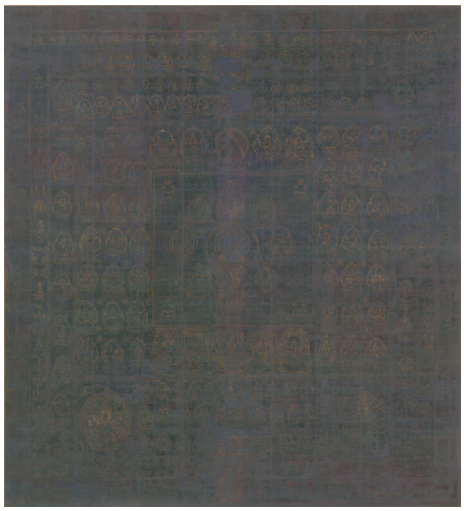
本展はエルメス財団と共同で企画したもので、9月7日から銀座・メゾンエルメス フォーラムで開催される同作家個展との連携企画です。

観覧料：一般1,500円（1,400円）、大学生1,000円（800円）

※（ ）内は前売料金　※前売券は4月11日（木）から6月24日（月）まで、オンラインチケット等で販売。

※詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

https://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=2637



胎蔵界

（部分）
金銀泥で描かれた不動明王

◉両界曼荼羅（高雄曼荼羅）のうち胎蔵界

平安時代・9世紀　京都・神護寺蔵

展示期間：7月17日（水）～8月12日（月・休）

およそ4m四方の大きさを持つ、現存最古の両界曼荼羅です。後期（8月14日〈水〉～9月8日〈日〉）では金剛界を展示します

◉薬師如来立像

平安時代・8～9世紀　京都・神護寺蔵

鋭い彫りと量感あふれる表現が独特の迫力を生み出します

創建1200年記念 特別展
「神護寺（じんごじ）――空海（くうかい）と真言密教（しんごんみっきょう）のはじまり」

平成館特別展示室　**7月17日㊌～9月8日㊐**

京都市の北西部、高雄に所在する神護寺は、紅葉の名所として古くから知られてきました。天長元年（824）、高雄山寺（たかおさんじ）と神願寺（じんがんじ）というふたつの寺院がひとつになり、神護寺が誕生します。唐で密教を学んだ空海が帰国後、宗教的な活動をスタートさせたのが高雄山寺でした。国宝「灌頂歴名（かんじょうれきみょう）」や国宝「両界曼荼羅（高雄曼荼羅）」は、空海に直接関わる作品です。また、神護寺の前身寺院にまつられていた国宝「薬師如来立像（やくしにょらいりゅうぞう）」は、平安初期彫刻の最高傑作。寺外での公開は、神護寺史上初めてのことです。本展は、空海と真言密教の始まりの地、神護寺に伝わる寺宝の数々をご紹介するまたとない機会です。ご期待ください。

（古川攝一）

※詳細は展覧会公式サイト等をご覧ください。

展覧会公式サイト　https://tsumugu.yomiuri.co.jp/jingoji/

本館

金色の輝きに込められた往生への願い

阿弥陀如来像

4月9日（火）～5月19日（日）

3室 仏教の美術

金色に輝く阿弥陀如来です。右手は親指と人差し指で輪をつくって胸前に、左手は中指と親指で輪をつくり、腰のあたりに下げています。これは来迎印といって、亡くなった人々の前にやってくる阿弥陀如来のポーズです。足元には雲があり、頭の後ろから光の筋が放射状に描かれます。この姿を見た当時の人々はきっと、目の前に現れる阿弥陀如来のまばゆい姿に心を奪われたことでしょう。輝きの秘密は、金泥という金を素材にした絵具を用いた彩色です。衣を見ると、金地に細やかな金泥文様が重ねられています。金色に輝く阿弥陀如来の姿には、極楽往生という人々の切なる願いが表れています。

（古川攝一）

阿弥陀如来像
鎌倉時代・14世紀

本館

蓮を愛でる古の文人、茶人たちの憧れ

南京赤絵 周茂叔愛蓮図火入

3月12日（火）～4月21日（日）

4室 茶の美術

日本で「南京赤絵」と呼ばれて親しまれてきた器です。南京赤絵とは、中国の明末清初の頃に景徳鎮民窯で焼かれたもので、下絵付けの青花（染付）は境界線などごく一部にだけ用いられ、主文様は五彩（色絵）であらわされた一群をいいます。火入は灰と火種の切炭を入れておくもので、茶事では寄付や薄茶が振舞われる前などに煙草盆にセットされて持ち出されます。本作品は茶の湯に造詣が深かった古美術商の広田不孤斎（1897～1973）の愛蔵品で、北宋を代表する儒学者・周茂叔が舟に乗って蓮を眺めるみやびな絵が描かれています。

（三笠景子）

南京赤絵周茂叔愛蓮図火入
中国・景徳鎮窯　明時代・17世紀
広田松繁氏寄贈

東洋館

たくましき霊獣の勇姿

獅子像

通年展示

1室 中国の仏像

中国の仏像をテーマにした展示室に、時々動物がいるのをご存じですか？　なぜ仏像が並ぶケースに獅子が出てくるのかと思われるかもしれませんが、じつは仏の乗り物なのです。まず、背中に敷物をかけ、胸と尻に紐をつなぐことから、野生の獅子ではないことがわかります。さらに、鞍の代わりに蓮華座の一部を乗せるため、その主は人ではなく仏であることが推測されます。不在なのが惜しまれますが、文殊菩薩が座っていたのでしょう。筋骨たくましい堂々とした姿と、細かく彫り込まれたたてがみの毛筋や飾りを見ると、全長20センチばかりの小像とは思えず、足裏には肉球まで表される入念の作です。

（西木政統）

右前足裏部分

獅子像
中国
五代～遼時代・10世紀
武吉道一氏寄贈

東洋館

修理によりよみがえった、繊細な表現・緻密な彩色

第二十三天聖尊者図軸

～4月7日（日）

10室 朝鮮時代の美術

岩に座る羅漢を僧侶に対して大きく描く、古めかしい図像の羅漢図です。左上に朱線で囲んで、羅漢の名前「第二十三天聖尊者」が記されます。高麗がモンゴル帝国の侵略を受けていた時代、武官の金義仁が国土の平安と王の長寿を願ってつくらせた五百羅漢のひとつとされています。

本作品は、2021年度に修理を終えました。折れを改善し、赤味が強く暗かった裏打紙（絵のある絹の後ろに当てる紙）を交換した結果、淡墨や淡彩の繊細な表現が視認しやすくなりました。このたびの展示が修理後初公開になります。中国絵画をよく学んだ樹木や岩肌の巧みな筆墨、衣と肌そして歯や爪に至るまで丁寧に施された彩色にご注目ください。

（植松瑞希）

（部分）

第二十三天聖尊者図軸
筆者不詳　朝鮮
高麗時代・高宗22年（1235）
奥義制氏寄贈

総合文化展 ピックアップ!

Pick up!

平成館

知られざる弥生土器研究の原点

赤彩格子文壺形土器

3月5日(火)～9月1日(日)
考古展示室

赤彩格子文壺形土器
弥生時代(後期)・1～3世紀
東京都豊島区 駒込一丁目遺跡出土
徳川頼貞氏寄贈

明治17年(1884)、東京大学に隣接する向ヶ岡弥生町から発見された赤焼の土器が、のちに「弥生式土器」と呼ばれ、弥生時代や弥生文化が知られる端緒になったことはよく知られています。

その一方で、在野の考古学者である蒔田鎗次郎が論文で「弥生式土器」の名称を用いたことで活字として定着し、本格的に弥生土器の研究が進められていったことはあまり知られてはいません。本例は、その論文で取り上げられた土器のひとつで、六義園そばにあった蒔田の自宅敷地内(駒込一丁目遺跡)から出土したものです。弥生土器研究の起点となった弥生土器、ぜひご覧ください。

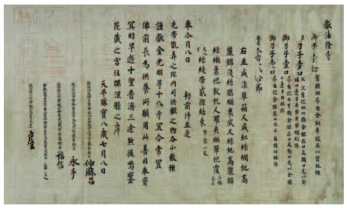
(品川欣也)

法隆寺宝物館

法隆寺宝物の歴史的成り立ちを表す

国宝 法隆寺献物帳

4月9日(火)～6月2日(日)
第6室 書跡 ―法隆寺献物帳と古今目録抄―



◉法隆寺献物帳 (部分)
奈良時代・天平勝宝8歳(756)

縹色の料紙には、唐の楷書にならった端整な書と、改竄を防ぐべくびっしりと捺された18顆の璽印「天皇御璽」が見られます。これは、天平勝宝8歳(756)5月2日に崩御した聖武天皇の供養のため、同年7月8日に皇女の孝謙天皇が父帝遺愛の品を法隆寺へ献納した際の目録です。

本文より、遺愛品は東大寺(金光明寺)等の十八寺に献納され、法隆寺には帯・刀子・香木が納められたことが知られます。聖武天皇の后・光明皇后が東大寺に献納した際の「東大寺献物帳」(正倉院蔵)とともに、皇后・皇女による追善供養を示す貴重な史料です。末尾の藤原仲麻呂ら5名の直筆署名も見どころです。

(六人部克典)

黒田記念館

秘めた追憶をうかがわせる水辺のひととき

舟

～3月31日(日)
黒田記念室

舟
黒田清輝筆
明治22～23年(1889～90)頃
赤松雅子氏寄贈

岸辺につながれた小舟が1艘、水面は空を映して穏やかです。2本の櫂のうち1本は水に入れられたまま、もう1本は舟縁に横たえられ、今しがたまで人が乗っていたようにも見えます。留学中に描かれた作品で、同じ頃、画友の久米桂一郎と川遊びなどして過ごした日々を振り返り、「夏の世の月かけよりも常なきハ逢えて別るゝ人の行くすゑ」と詠んだ歌が、父宛の手紙に記されています。舟遊びは印象派の画家たちの好むテーマでもありましたが、黒田は人のいない舟によって、過ぎ行く時を惜しむ心持ちを表したのかもしれません。

(東京文化財研究所・吉田暁子)

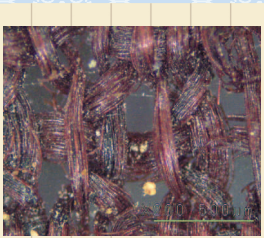
トーハクの調査研究㉓

博物館の重要な使命のひとつである「調査研究」。その一端をご紹介します。

小さな端切れがつなぐ奇跡

当館は、浄土真宗本願寺派法主・大谷光瑞がシルクロードに派遣した探検隊の資料を所蔵しています。隋・唐時代を中心とする敦煌・トルファン出土の絹織物で、劣化した小さな端切れは本来の用途すらわかりません。230件余りの端切れを1点1点顕微鏡写真で記録し、調査した成果を創立150年記念特集「再発見!大谷探検隊とたどる古代裂の旅」(2022年9月21日(水)～12月4日(日))で紹介しました。その調査研究が評価され、2023年度、国から科学研究費の助成金をいただき、大谷光瑞が中国・旅順に遺した資料を調査するために旅順博物館に出かけました。同博物館で展示されている女性ミイラの衣装を詳細に調査したところ、なんと、当館所蔵の織物(写真)と同じ織物の断片を発見したのです! 地道な調査が報われたと感じられた瞬間でした。

(小山弓弦葉)

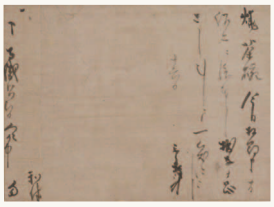


(顕微鏡拡大写真)

紫羅
麹氏高昌国～唐時代・6～7世紀
中国吐魯番アスターナ・カラホージャ古墓群出土
大谷探検隊将来品
複雑な織組織を持つ「羅」は中国古代に特徴的な絹織物です。
※展示の予定はありません。

案内 2階 流れ

4 茶の美術

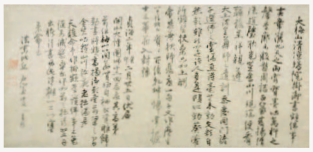


3/12㊋-4/21㊐
書状
千利休筆　安土桃山時代・16世紀
善田喜一郎氏寄贈
千利休が茶碗を贈るために弟子の古田織部に宛てた、晩年の手紙です

4/23㊋-10/6㊐
◎青磁琮形花入
中国・官窯　南宋時代・12～13世紀
尾張徳川家伝来　広田松繁氏寄贈

3-3 禅と水墨画 ―鎌倉～室町

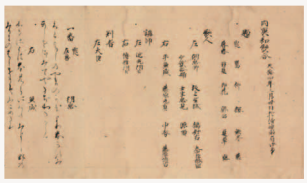
-4/7㊐
◎四季山水図屏風
楊月筆　室町時代・15～16世紀
室町時代に活躍した楊月の代表作。人々の多彩な営みに注目です
（右隻部分）



4/9㊋-5/19㊐
◎法語
石室善玖筆
南北朝時代・貞治2年（1363）
松永安左エ門氏寄贈

3-2 宮廷の美術 ―平安～室町

-4/7㊐
❀◎類聚歌合（天徳四年内裏歌合）
伝藤原忠家筆　平安時代・12世紀
田中親美氏寄贈
平安時代の能書が寄書した作品。歌合で詠まれた春の歌が書かれています


（部分）

4/9㊋-5/19㊐
◎為家本時代不同歌合絵
鎌倉時代・14世紀
今年の大河ドラマの主人公・紫式部も描かれている白描歌合絵です

3-1 仏教の美術 ―平安～室町

-4/7㊐
弘法大師像　鎌倉時代・14世紀
空海の背後には満開の桜と釈迦如来が描かれます

4/9㊋-5/19㊐
当麻曼荼羅図
鎌倉時代・14世紀
阿弥陀如来がいる極楽浄土の世界を描く、華やかな作品です

1-1 日本美術のあけぼの ―縄文・弥生・古墳

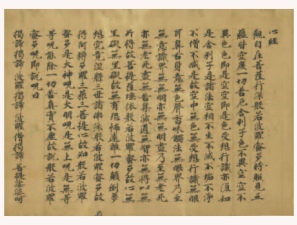
-6/30㊐
袈裟襷文銅鐸
弥生時代（後期）・1～3世紀
愛知県豊川市小坂井町伊奈松間出土

◎埴輪 猿
古墳時代・6世紀
伝茨城県行方市大日塚古墳出土
子を背負う猿の埴輪で、振り返り子を見守るしぐさを表現しています

1-2 仏教の興隆 ―飛鳥・奈良

-4/21㊐
瑞花双鸞八花鏡
奈良時代・8世紀
大分県杵築市山香町向野津波戸山頂出土
唐代の鏡を型取りしてつくっていますが、文様が鮮明に現れています

4/23㊋-6/2㊐
隅寺心経
伝空海筆
奈良時代・8世紀
筒井邦子氏寄贈

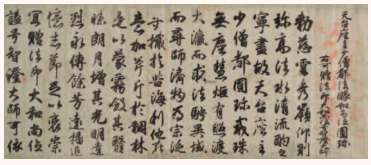


2 国宝室

4/9㊋-5/12㊐
◉賢愚経残巻（大聖武）
伝聖武天皇筆　奈良時代・8世紀

（部分）

5/14㊋-6/9㊐
◉円珍贈法印大和尚位並智証大師諡号勅書
小野道風筆　平安時代・延長5年（927）
円珍に僧位と諡号（おくり名）を追贈した勅書。豊満で端整な字姿は小野道風の代表作


（部分）

※本館2階便殿にて、鳳輦を展示しています。2024年4月2日（火）から、腰輿も展示します。　※❀は「博物館でお花見を」（→2, 3ページ）関連作品です。

7 屏風と襖絵 ―安土桃山～江戸

-4/7㊐ （→2ページ）

犬追物図屏風
筆者不詳
江戸時代・17世紀

（右隻）

4/9㊋-5/19㊐

群仙図屏風
横山華山筆
江戸時代・19世紀
江戸時代後期に京都で活躍した華山が描く、ユーモアあふれる群仙図です

（右隻）

5・6 武士の装い ―平安～江戸

-5/6㊊・㊡

◎朱漆金蛭巻大小
安土桃山時代・16世紀
豊臣秀吉ゆかりの名品。鮮やかな朱色の鞘に金の蛭巻が映えます

-4/21㊐

仁王胴具足
安土桃山時代・16世紀
仏像の仁王のような意匠の甲冑。髷をかたどった奇抜な兜も見所です

8-1 暮らしの調度 ―安土桃山・江戸

-4/21㊐

藤棚蒔絵書見台
江戸～明治時代・19世紀　矢野鶴子氏寄贈
竹をかたどる支柱をそなえ、全体で藤棚をあらわす洒脱なデザイン

4/23㊋-7/15㊊・㊗

色絵琴高仙人図鉢
伊万里　江戸時代・17～18世紀

8-2 書画の展開 ―安土桃山～江戸

4/9㊋-5/19㊐

和歌巻
本阿弥光悦筆
安土桃山時代～江戸時代・17世紀
川合玉堂氏寄贈
光悦ならではの肥痩のある筆遣いと華やかな装飾料紙がみどころです

（部分）

-4/7㊐

桜下美人図
長沢芦雪筆
江戸時代・18世紀

9 能と歌舞伎

3/5㊋-4/21㊐

狩衣
紺地桐角紋散模様
江戸時代・18世紀　奈良・金春家伝来
高貴な神々を演じる際には、金糸で荘重な模様を織り出した狩衣を用います

4/23㊋-6/23㊐

厚板 浅葱地笹蝶模様
江戸時代・18世紀
彩りのある雅な蝶に、笹の葉を斜めに配したデザインが斬新です

10 浮世絵と衣装 ―江戸

浮世絵

3/12㊋-4/14㊐

飛鳥山図　鍬形蕙斎筆　江戸時代・19世紀
風景画を得意とした蕙斎が描いた、長閑な春の飛鳥山です

4/16㊋-5/12㊐

名所江戸百景・亀戸天神境内
歌川広重筆
江戸時代・
安政3年（1856）

衣装

3/5㊋-4/21㊐

小袖 紫白染分縮緬地笠扇桜文字模様
江戸時代・18世紀
カタカナの文字散しが珍しい、友禅染の優品です

4/23㊋-6/23㊐

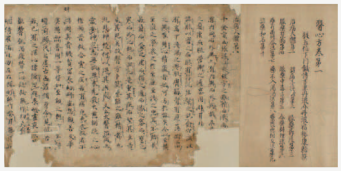
◎小袖 白黒紅染分綸子地熨斗藤模様
江戸時代・17世紀

15 歴史の記録

-4/7㈰
◎甲州道中分間延絵図
江戸幕府（道中奉行所）編
江戸時代・文化3年（1806） 浅草文庫旧蔵
江戸日本橋から下諏訪を結ぶ甲州道中のうち、石和宿を描いた部分です

（石和宿部分）

4/9㈫-5/12㈰
◉医心方 巻第一
治病大体部
丹波康頼撰
平安時代・12世紀


（部分）

14 特集（→12ページ）

「おひなさまと日本の人形」
-3/31㈰
立雛（次郎左衛門頭）
江戸時代・18～19世紀

「行道面 ほとけを演じるための仮面」
4/2㈫-5/26㈰
追儺面 鬼
鎌倉時代・14世紀 山形・慈光明院蔵

13-3 陶磁

3/12㈫-6/2㈰
色絵桜花鷲文大皿
伊万里 江戸時代・18世紀
加瀬礼二氏寄贈

色絵桜樹図透鉢
仁阿弥道八作 江戸時代・19世紀
点描画のように描かれた桜が、器の中に咲きほこる、透かしの見事な鉢です

13-2 刀剣

3/5㈫-5/26㈰
◉太刀 伯耆安綱（名物 童子切安綱） 平安時代・10～12世紀
鬼を切った伝説をもつ、天下五剣のひとつとして名高い名刀です

梨地糸巻太刀（国宝 太刀 伯耆安綱（名物 童子切安綱）の拵）
江戸時代・17世紀

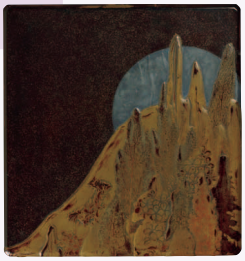
11 彫刻

-4/7㈰
千手観音菩薩坐像
南北朝時代・14世紀

4/9㈫-9/29㈰
◎不動明王立像
平安時代・11世紀
顔の作りが中央にまとまり衣の線が整っているのは、平安時代後期の特色です

12 漆工

3/12㈫-6/2㈰
桜西行蒔絵硯箱 江戸時代・18世紀



◎初瀬山蒔絵硯箱
室町～安土桃山時代・16世紀
桜の咲く山に大きな月がかかります。歌枕「初瀬山」のイメージです

13-1 金工

-5/6㈪・㈷
七宝重丸瓶形花文水滴
江戸時代・18世紀
渡邊豊太郎氏・渡邊誠之氏寄贈

5/8㈬-7/21㈰
◎金銅灌仏盤 平安時代・12世紀
釈迦の誕生を祝う儀式で、仏像にかける甘茶を受ける容器です

特集 親と子のギャラリー

よりそう動物たち
―家族、仲間のすがたとかたち―

本館特別２室　５月14日（火）～６月16日（日）

毎年春に東京都恩賜上野動物園、国立科学博物館と実施している3館園連携企画「上野の山で動物めぐり」の関連展示を、今年も開催します。17回目となる今回は、「家族、仲間」がテーマです。動物の群れや親子、鳥のつがい（夫婦）、子孫繁栄の願いが込められた吉祥文様など、当館の豊かな所蔵作品ならではの、さまざまな家族、仲間の表現をご紹介します。連携企画の一環として、上野動物園解説員、国立科学博物館研究員による解説パネルも展示します。　（横山梓）

1匹でもかわいい。群れるとなお、かわいい！

水仙に群狗
礒田湖龍斎筆　江戸時代・18世紀
耳の垂れたむくむくとした犬は、描かれた当時人気があったようです

肩越しに見える子どもの安心した顔に注目

埴輪 子を背負う女子
古墳時代・6世紀
栃木県真岡市
鶏塚古墳出土
橋本庄三郎氏寄贈
子どもが母親に背負われる様子を表した親子の埴輪です

教育普及事業 みどりのライオン

オンライン　ギャラリートーク

「高麗時代の陶器」

講師：玉城真紀子（東洋考古）
陶磁文化が花開いた高麗時代。今回は陶器に注目し、器壁に残された文字や製作痕跡の観察を通じて、製作された時代背景と技術の特徴を解説します。

「博物館に初もうで　謹賀辰年―年の初めの龍づくし―」

講師：児島大輔（日本・東洋彫刻）、山本桃子（博物館教育）
今年の干支は「辰」です。龍をモチーフとした作品を選りすぐってご紹介することで、年のはじめを寿ぎます。

「浮世絵―季節と暮らしを描く―」

講師：村瀬可奈（日本絵画）
四季折々の風景や人々の日常を描いてきた浮世絵。今回は冬をテーマにした美人画や風景画のなかから、浮世絵師たちの表現や技法をご紹介します。

ご自宅等でお楽しみいただけるようYouTubeによる動画を配信しています。

※動画配信については、公開済、公開予定のコンテンツを掲載しています。

東京国立博物館 YouTubeチャンネル

16 アイヌと琉球

4/9㈫-7/7㈰
ヤーシグヮー
琉球　第二尚氏時代・19世紀
椰子の実でできた携帯用の酒器。籐蔓で持ちやすくしています

-4/7㈰
前垂
北海道アイヌ　19世紀
平子はつ氏寄贈

18 近代の美術

3/5㈫-4/14㈰
嵐山春景
塩川文麟筆
明治6年（1873）
塩川文麟氏寄贈
近代京都画壇の基礎を築いた文麟が、桜の名所嵐山の情景を描いた作品です

4/16㈫-5/26㈰
◎熱国之巻（朝之巻）
今村紫紅筆　大正3年（1914）

（部分）

特集「行道面（ぎょうどうめん） ほとけを演（えん）じるための仮面（かめん）」

本館14室　4月2日㊋～5月26日㊐

自分とは違う何かを演じるときに使う道具のひとつが仮面です。じつは日本では、世界に類を見ないほど多種多様な仮面がつくられ、また古い仮面が多く伝わっていることをご存知でしょうか。そのなかから今回ご紹介するのは、寺院の儀式で使用された仮面です。仮面を着けて仏を演じ、練（ね）り歩いたり、阿弥陀如来（あみだにょらい）に伴（ともな）って二十五菩薩（にじゅうごぼさつ）が来迎（らいごう）する様子を再現した儀式などで用いたのが行道面です。また、追儺面（ついなめん）は鬼追いなどに使われた面です。どんな儀式だったのか、様子を想像しながら、あるいは役の性格を表すための造形の工夫を探しながらご覧ください。　（川岸瀬里）

鬼を払う行事に使われた面

◎追儺面（ついなめん）　鬼（おに）

和歌山・丹生都比売神社伝来
鎌倉時代・正和2年（1313）
頭の角（つの）、赤く塗られた目が特徴の青鬼には、もとは牙がありました

仏像とよく似た造形

◎行道面（ぎょうどうめん）　毘沙門天（びしゃもんてん）

和歌山・丹生都比売神社伝来
鎌倉時代・14世紀
結んだ口、青黒い肌は、同時期の仏像としての毘沙門天（多聞天）に共通します

穏やかな表情で極楽浄土へ導く

行道面（ぎょうどうめん）　菩薩（ぼさつ）

平安時代・12世紀
この面を着け、その上に、金属製の宝冠を被っていたと考えられています

特集「おひなさまと日本（にほん）の人形（にんぎょう）」

本館14室　2月27日㊋～3月31日㊐

3月3日の桃の節句にちなんで、今年もおひなさまと日本の伝統的な人形の数々を飾ります。もともとひな祭りは、罪や穢（けが）れを人形に託して水に流した古代の風習や、平安貴族の子どもたちが行った「ひいな遊び」などが発展したものです。江戸時代には、女の子の成長と幸せを願って雛（ひな）人形を飾る風習が定着しました。

今年は、京都の老舗人形店・丸屋大木平蔵（まるやおおきへいぞう）による、皇族の婚礼を模した有職雛（ゆうそくびな）の名品を一堂に飾ります。そのほか、伝統的な京都の嵯峨（さが）人形や御所（ごしょ）人形などを展示します。繊細で美しく、そして可愛らしいものを尊ぶ日本の人形文化をお楽しみください。　（小山弓弦葉）

高い技術を伝える丸屋大木平蔵製の名品

有職雛飾り（ゆうそくびなかざり）

5世 大木平蔵作
昭和5年（1930）
瀬戸崇太郎氏寄贈
上段右側の束帯（そくたい）姿は天皇を、上段左側の唐衣裳（からぎぬも）（十二単）姿は皇后を表しています

豪華な彩色の衣装とユーモラスな表情

嵯峨人形（さがにんぎょう） 首（くび）ふり

江戸時代・17世紀
首が前後に振れて、口から舌が出る仕掛けになっています

ふくふくとした姿をいとおしむ

御所人形（ごしょにんぎょう） 笛吹（ふえふ）き童子（どうじ）

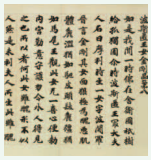
江戸時代・19世紀　尾竹越堂氏寄贈
日本画家・尾竹越堂（おたけえつどう）（1868～1932）が愛した赤子姿の人形です

特別企画「令和6年 新指定 国宝・重要文化財」　本館特別1室・特別2室・11室　4月23日（火）～5月12日（日）　主催：文化庁、東京国立博物館

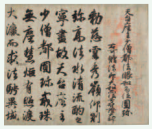
令和6年度の 総合文化展

本館2室（国宝室）

① 4月9日㊋～5月12日㊐
◉賢愚経残巻（大聖武）
伝聖武天皇筆　奈良時代・8世紀


① 部分

② 5月14日㊋～ 6月9日㊐
◉円珍贈法印大和尚位並智証大師諡号勅書
小野道風筆　平安時代・延長5年（927）


② 部分

③ 6月11日㊋～7月7日㊐
◉善無畏像
平安時代・11世紀　兵庫・一乗寺蔵

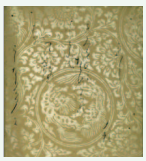
④ 部分

④ 7月9日㊋～ 8月4日㊐
◉十六羅漢像（第三尊者）
平安時代・11世紀

⑤ 8月6日㊋～ 9月8日㊐
◉六道絵（畜生道）
鎌倉時代・13世紀　滋賀・聖衆来迎寺蔵

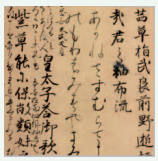
⑥ 部分

⑥ 9月10日㊋～ 10月14日㊊・㊗
◉檜図屏風
狩野永徳筆　安土桃山時代・天正18年（1590）


⑦ 部分

⑦ 10月16日㊌～ 11月17日㊐
◉古今和歌集（元永本）下帖
平安時代・12世紀　三井高大氏寄贈

⑧ 11月19日㊋～12月22日㊐
◉元暦校本万葉集　巻一（古河本）
◉元暦校本万葉集　巻十（古河本）
◉元暦校本万葉集　巻十九（高松宮本）
平安時代・11世紀


⑧ 巻一（古河本）部分

⑨ 2025年1月2日㊍～1月13日㊊・㊗
◉松林図屏風
長谷川等伯筆　安土桃山時代・16世紀

⑨ 部分

⑩ 2025年1月15日㊌～2月16日㊐
◉和歌体十種
◉和歌体十種断簡
平安時代・11世紀

⑩ 和歌体十種 部分

⑪ 2025年2月18日㊋～3月16日㊐
◉法華経 方便品（久能寺経）
平安時代・12世紀　静岡・鉄舟禅寺蔵

⑫ 部分

⑫ 2025年3月18日㊋～4月13日㊐
◉花下遊楽図屏風
狩野長信筆　江戸時代・17世紀

当館ウェブサイト
国宝室の展示スケジュール▶

特集

特集　行道面　ほとけを演じるための仮面　（→12ページ）
4月2日㊋～5月26日㊐　本館14室

特集　親と子のギャラリー
よりそう動物たち―家族、仲間のすがたとかたち―　（→11ページ）
5月14日㊋～6月16日㊐　本館特別2室

特集　阿弥陀如来のすがた
5月21日㊋～7月7日㊐　本館特別1室

特集　吉野と熊野―山岳霊場の遺宝―
5月28日㊋～7月15日（㊊・㊗）　本館14室

特集　人間国宝・平田郷陽の人形―生人形から衣裳人形まで―
7月17日㊌～9月1日㊐　本館14室

特集　江戸時代の図譜文化―堀田正敦編『禽譜』とその魅力―
8月6日㊋～10月6日㊐　本館15室

特集　没後100年・黒田清輝と近代絵画の冒険者たち
8月20日㊋～10月20日㊐　本館特別1室、特別2室

特集　能面に見る写しの文化
9月3日㊋～10月20日㊐　本館14室

特集　令和5年度新収品
10月1日㊋～11月10日㊐　平成館企画展示室

特集　やきものを彩る金と銀
10月22日㊋～12月1日㊐　本館14室

特集　モダンきもの―名門「大彦」の東京ファッション―（仮）
10月29日㊋～12月8日㊐　本館特別1室、特別2室

特集　中国書画精華―宋・元時代の名品―
11月12日㊋～12月22日㊐　東洋館8室

特集　遊牧民バルーチ族の染織―遊牧生活とトライバル・ラグ―
11月12日㊋～2025年2月16日㊐　東洋館13室

特集　博物館に初もうで―巳年―（仮）
2025年1月2日㊍～1月26日㊐　本館特別1室

特集　日本の伝統模様「雪」
2025年1月2日㊍～2月16日㊐　本館14室

特集　拓本のたのしみ―明清文人の世界―（仮）
2025年1月2日㊍～3月16日㊐　東洋館8室

特集　おひなさまと日本の人形
2025年2月18日㊋～3月23日㊐　本館14室

特集　長崎奉行所伝来のキリシタン関係遺品
2025年3月25日㊋～5月18日㊐　本館14室

注目の企画

❶トーハクキッズデー	5月26日㊐、7月28日㊐、11月24日㊐ 2025年1月26日㊐（予定）　全館
❷博物館でアジアの旅	10月1日㊋～11月10日㊐　東洋館
❸留学生の日	10月5日㊏（予定）　全館
❹博物館に初もうで	2025年1月2日㊍～1月26日㊐　本館、東洋館等
❺博物館でお花見を	2025年3月11日㊋～4月6日㊐　本館

※展示作品、会期等については、今後の諸事情により変更する場合があります。

総合文化展オンラインチケットの販売開始について

1月末より、アソビュー株式会社の予約サイト「アソビュー！」による総合文化展のオンラインチケット販売を開始いたしました。事前購入によるスムーズな入館が可能です。また、3月末から、リニューアルした自動券売機をご利用いただけます。

「踊る埴輪&見返り美人 修理プロジェクト」の進捗について

皆様のご寄附により進められている「埴輪 踊る人々」の修理はいよいよ佳境に入ります。補修箇所に彩色を施すとともに、安全に展示を行うために新たな支持具を作成しました。まもなく、踊る埴輪が当館に戻ってきます。

また、「見返り美人図」についても昨年10月に修理が始まりました。修理の進捗はウェブサイトでも詳しくご紹介しています。ぜひご覧ください。

「見返り美人図」の修理にかかる協議の様子

当館ウェブサイト内「修理の進捗について」ページ

TNM & TOPPAN ミュージアムシアター

VR作品『江戸城の天守』　4月14日（日）まで

徳川三代将軍家光によってつくられた江戸城最後の天守は、莫大な費用と最高の技術が注がれた、史上最大の天守だったと言われています。それはいったいどんな姿だったのでしょう？ 図面や絵図に加え、現存する文化財や伝統技術を手がかりに、ご来場の皆さまと一緒に江戸城天守の再現過程をお楽しみいただくプログラムです。

料　金：一般・大学生・高校生：600円、
　　小学生・中学生：300円、未就学児・障がい者とその介護者各１名は無料（1作品/1回あたり）、別途入館料が必要です。
上演時間：約35分
※開演時間までにシアター前券売機にてチケットをお買い求めください（当日券のみ）。

〔予告〕VR作品『洛中洛外図屏風　舟木本』
4月17日（水）～7月15日（月・祝）（予定）

※演目・スケジュールその他は、都合により変更もしくは休演となる場合がございます。
※詳細、最新の情報はウェブサイト（https://www.toppan-vr.jp/mt/）をご覧ください。

特別展チケットプレゼント

創建1200年記念　特別展
「神護寺―空海と真言密教のはじまり」

（2024年7月17日〈水〉～ 9月8日〈日〉→5ページ）の無料観覧券（10組20名様）をプレゼントします。締切は6月10日（月）必着。

＊プレゼントの応募方法

はがきに郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、ならびにこの号で一番おもしろかった記事をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって代えさせていただきます。

〒110-8712　東京都台東区上野公園13-9
東京国立博物館 広報室
「ニュース3-5月号」プレゼント係

令和6年能登半島地震に係る募金箱設置について（設置は終了しました）

本年1月1日に発生した令和6年能登半島地震により、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。この地震により甚大な被害が生じました被災地支援のため、本館１階の中央階段下に募金箱を1月28日（日）まで設置し、お寄せいただきました義援金2,604,115円は日本赤十字社を通じて被災地にお届けしました。ご支援いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

なお、東京国立博物館ニュース2023年12−2024年2月号でご紹介しました、国宝「松林図屏風」（本館2階 国宝室）の作者である長谷川等伯は、能登半島にある七尾で生まれました。義援金募集期間にあわせて、能登にゆかりのある国宝「松林図屏風」の展示期間を1月28日（日）まで延長しました。

東京・春・音楽祭 2024

「東京・春・音楽祭」は、桜咲く上野を舞台に東京の春の訪れを音楽で祝う、国内最大級のクラシック音楽の祭典です。2024年には記念すべき20周年の節目を迎えます。当館では毎年恒例、J.S.バッハの作品を中心としたミュージアム・コンサートを開催するほか、今年は無料ミニコンサート「桜の街の音楽会」を再開します。

写真提供：東京・春・音楽祭実行委員会
撮影：飯田耕治
2023年「ミュージアム・コンサート　東博でバッハ vol.63　上村文乃」公演の様子

ミュージアム・コンサート

①東博でバッハ vol.65　成田達輝（ヴァイオリン）　3月21日（木）
②東博でバッハ vol.66　鈴木大介（ギター）　3月26日（火）
③東博でバッハ vol.67　津田裕也（ピアノ）　4月3日（水）
④東博でバッハ vol.68　鈴木大介（ギター）　4月9日（火）
⑤東博でバッハ vol.69　新倉 瞳（チェロ）　4月11日（木）

会場：①⑤法隆寺宝物館エントランスホール
　　②③④平成館ラウンジ
時間：①～⑤19:00開演（18:30開場）
料金：①～⑤各公演4,000円（税込／全席自由）
チケットをお求めの際は東京・春・音楽祭オンライン・チケットサービス（https://www.tokyo-harusai.com/）をご確認ください。

桜の街の音楽会

⑥出演者未定（サックス四重奏）
　3月19日（火）　13:00開演（20分程度）　本館前庭（中央池前）
　※雨天中止
⑦出演者未定（木管もしくは弦楽器奏者）
　3月19日（火）　15:00開演（20分程度）　平成館ラウンジ

料金：⑥・⑦各公演無料（ただし当日の入館料が必要）
出演者については、決定後、東京・春・音楽祭の公式サイト（https://www.tokyo-harusai.com/）でご案内します。

主催：東京・春・音楽祭実行委員会
公演に関するお問合せ：TEL 050-3496-0202
　　東京・春・音楽祭サポートデスク

※月・水・金曜日の10:00 ～ 15:00（３月15日［金］～４月21日［日］は土・日祝日も含め全日10:00 ～ 19:00）

3・4・5月の休館日情報

休館日	3月	4月	5月
	4日、11日、18日	1日、8日、15日、22日	7日、13日、20日、27日

※3月25日(月)、4月30日(火)は臨時開館します。
※開館時間、休館日等の最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください。

◆東京国立博物館利用案内

総合文化展観覧料金　一般1,000円、大学生500円

- 事前予約は不要です。
  ※混雑時には展示施設前でお待ちいただく可能性があります。
  ※特別展の入館方法は展覧会ごとに異なります。
  詳細は展覧会公式サイトをご確認ください。
- 障がい者とその介護者各1名は無料。
  満70歳以上、高校生以下および満18歳未満の方は無料。
- 国際博物館の日(5月18日〈土〉)、敬老の日(9月16日〈月・祝〉)、文化の日(11月3日〈日・祝〉)は、総合文化展のみ観覧無料。

＊詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

最新情報は、ウェブサイト、Facebook、
X(旧Twitter)、Instagram、メールマガジンで！
東京国立博物館ウェブサイト
https://www.tnm.jp/

◆東京国立博物館賛助会員(寄附会員制度)募集のご案内

東京国立博物館の運営の趣旨にご賛同いただける団体・個人向けの寄附会員制度です。賛助会費(ご寄附)は、文化財の購入、修理、教育普及事業など、博物館運営に充てられます。寄附金控除の対象になります。

【主な特典】特別展内覧会へのご招待 など

【年 会 費】〈団体〉プレミアム会員 1,000万円以上、
特別会員 100万円(1口)、維持会員 20万円
〈個人〉ダイヤモンド会員 1,000万円、
プラチナ会員 100万円以上、ゴールド会員 20万円、
シルバー会員 5万円

【申込方法】会員受付窓口、ウェブサイト(クレジットカード決済)、銀行振込

＊詳細は担当までお問合せください。

◆東京国立博物館会員制度

東京国立博物館では、1年間のうち何度でもご来館いただける会員制度をご用意しております。

会員制度の詳細はこちら

友の会

発行から1年間有効　年会費:7,000円

【特　　典】東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能。東京国立博物館の特別展観覧券を3枚と、ミュージアムシアター観覧券1枚、ショップ・レストラン割引などさまざまな特典があります。

＊本誌の郵送をご希望される場合は、別途「東京国立博物館ニュース」の定期購読をお申込みください。

＊特別展が事前予約制の場合は、事前予約が必要となります。

国立博物館メンバーズパス(4館共通)

発行日から1年間有効 年会費:一般2,500円、学生1,200円

【特　　典】東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能です。

東京国立博物館ニュース定期購読

年会費:1,000円(1年分)

【特　　典】東京国立博物館ニュースを年4回、1年分ご指定の場所に送付いたします。

＊次号(6-8月号)より送付をご希望の場合、締切は2024年5月10日(金)です。

○申込方法

1. 会員受付窓口
   当館正門前の会員受付窓口で即日発行し、当日からご使用いただけます(現金またはクレジットカード、電子マネー)。
   受付日時は、開館日の9時30分から閉館の30分前までです(特別展等により変更になる場合があります)。
2. ウェブサイト
   専用申込フォームからお申込みください(クレジットカードまたは郵便振替〈振替用紙を送付〉)。
3. 郵便振替
   - 振替用紙に①種別(友の会、4館共通、ニュース)、②区分(一般、学生〈4館共通のみ〉)、③メールアドレス(メールマガジン希望者のみ)、④郵便番号、⑤住所、⑥氏名(ふりがな)、⑦電話番号を通信欄・ご依頼人欄にご記入の上、下記口座までお振替ください。
     加入者名:東京国立博物館会員制度
     口座番号:00140-3-791791
   - 友の会または国立博物館メンバーズパス(4館共通)にお申込みの方で、「東京国立博物館ニュース」の送付をご希望の方は、振替用紙に『東京国立博物館ニュース定期購読希望』とご記入のうえ、各会費に追加料金として1,000円を加えた金額をお振替ください。
   - 振替用紙の半券が領収書になります。有効期限終了まで保管してください。
   - 振替手数料はお客様負担となります。
   - ご入金確認日より会員証等がお手元に届くまで、2週間程度かかります。

＊一度納められた料金の払い戻しはいたしません。

＊お申込みに際してご提供いただいた個人情報は、当該目的にのみ使用させていただきます。当館は個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします。

○お問合せ　電話 03-3822-1111(代)／FAX 03-3821-9680　総務課渉外開発担当　＊月～金曜日の9:30～17:00(土日・祝休日は除く)

表紙の名品

2024年3月・4月・5月号

金龍山桜花見（きんりゅうざんさくらはなみ）

3月12日（火）～4月14日（日）
本館10室

心浮き立つ　花見の季節　このときめきは今も昔も

金龍山桜花見　鳥文斎栄之（1756～1829）筆　江戸時代・18世紀　大判を横に3枚つないだ、ワイドスクリーンの浮世絵です

日常からしばし離れて花見に出かけることは、江戸に暮らす人々の大きな楽しみでした。鳥文斎栄之筆「金龍山桜花見」には桜の名所、浅草が描かれています。画面左奥に小さくみえるのは浅草寺の本堂（観音堂）と五重塔。かつて松尾芭蕉が「観音のいらか（甍）みやりつ花の雲」と詠んだように、花霞に浮かび上がる本堂の大屋根は、江戸を象徴するランドマークでもありました。

前景には今が盛りと咲く満開の桜と、連れ立って花見に訪れた女性たちが描かれています。桜樹は竹垣で囲われ、講中*によって奉納されたことを示す立札が立てられています。ここは浅草寺の本堂裏手の奥山と呼ばれる一帯で、享保期（1716～36）に吉原遊女たちが「千本桜」を寄進して評判を呼び、以降も桜が植え継がれたといいます。

女性たちに注目すると、いずれも皆、天明・寛政期（1781～1801）に流行した燈籠鬢と呼ばれる髪型を結っています。帯の下に腰帯を締め、着物が汚れないよう裾をたくし上げたスタイルも共通します。しかしよく見れば、彼女たちは2つのグループに分けられるようです。画面右手、女乗物から降りて歩いてくる華やかな一行は武家の女性たち。一方、縞柄の着物に赤い前帯を締めた女性を先頭に、左から歩いてくる3人は町家の女性たちと思われます。

実際、江戸の花見は老若男女、階層を問わずさまざまな人が集まる開けた場だったといいます。酒食を楽しみ、詩歌を詠み、時に見ず知らずの人にも出会う非日常的な空間だったのです。本作品を描いたのは、旗本出身の浮世絵師・鳥文斎栄之。美人画を得意とした栄之は、本作品の群像表現においても一人ひとりの仕草や表情を描き分け、賑やかな場面を演出しています。この後すれ違うはずの彼女たちは、きっと視線や言葉を交わしたのだろうと、思わずにはいられません。

本館10室ではお花見の時期に合わせ、桜をモチーフにした浮世絵を多数ご紹介します。本作品のほか、上野や御殿山、飛鳥山などの名所を舞台に、春を謳歌する江戸の情景をぜひお楽しみください。

（村瀬可奈）

*神社や寺への参詣や、寄付などをする信者の団体のこと

東京国立博物館ニュース 第776号　2024年2月20日発行（年4回発行）
編集／東京国立博物館 広報室 ©東京国立博物館　発行／東京国立博物館 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9　デザイン／D_CODE　制作／TOPPAN株式会社
ウェブサイト https://www.tnm.jp/　独立行政法人国立文化財機構ウェブサイト https://www.nich.go.jp/